

植物の力で生活を豊かに 「日本のハーブ・アロマのパイオニア」 多方面にわたる商品開発力

カリス成城



「ハーブ」とは、香り、薬効、調味、色素など、人の心身と暮らしに有用な植物を総称し、「アロマ(＝香り)テラピー(＝治療)」とは、植物の香り成分である精油(エッセンシャルオイル)を利用して、心身を癒し調和をとる療法のことである。

カリス成城(世田谷区成城、坂出智之社長、03・3483・1960、<http://www.charis-herb.com>)は、日本で最初の「ハーブ」「アロマ」を専門に扱うショップ兼卸業として、昭和58年に開業した。当時は、まだハーブやアロマという言葉が

一般的ではなく、販売も普及活動だったという。高度経済成長期から成熟期に入り、暮らしを豊かに、というニーズの高



手選別作業



平成22年3月に出席したFOODEXの様

まった時期で、すぐ全国に卸の取引先ができ、卸業を中心に当初の十数年が過ぎた。

近年は専門店として出店の依頼も増え、現在では直営店が38店舗を数える。卸と小売が営業の両輪となり、過去3年は、国産のハーブ類を使用した商品開発を手がけ、海外の有機栽培原料を使用した商品とともに好評を得ている。

取扱う分野は多岐にわたり、①衣：ハーブ染め、オーガニックコットン ②食：ハーブティー、調味料、お菓子 ③住：ポプリ、リース、防虫、消臭などルームフレグランス、村おこし ④美：自然化粧品、各種トリートメントの素材や製品 ⑤健康：サプリメントドリンク、環境改善、マッサージ、芳香療法 ⑥趣味：ガーデニング、手作り化粧品やアクセサリーといった天然植物素材の有効性を活用した商品を、小ロット多品種で企画製造している。

PBやOEM製作にも力を入れているので、ぜひお気軽にお声がけいただきたい。